資料 5-3-2

多自然川づくりの具体事例（その２）

事例
定規断面の呪縛から離れる

木曽川水系長良川（岐阜県）

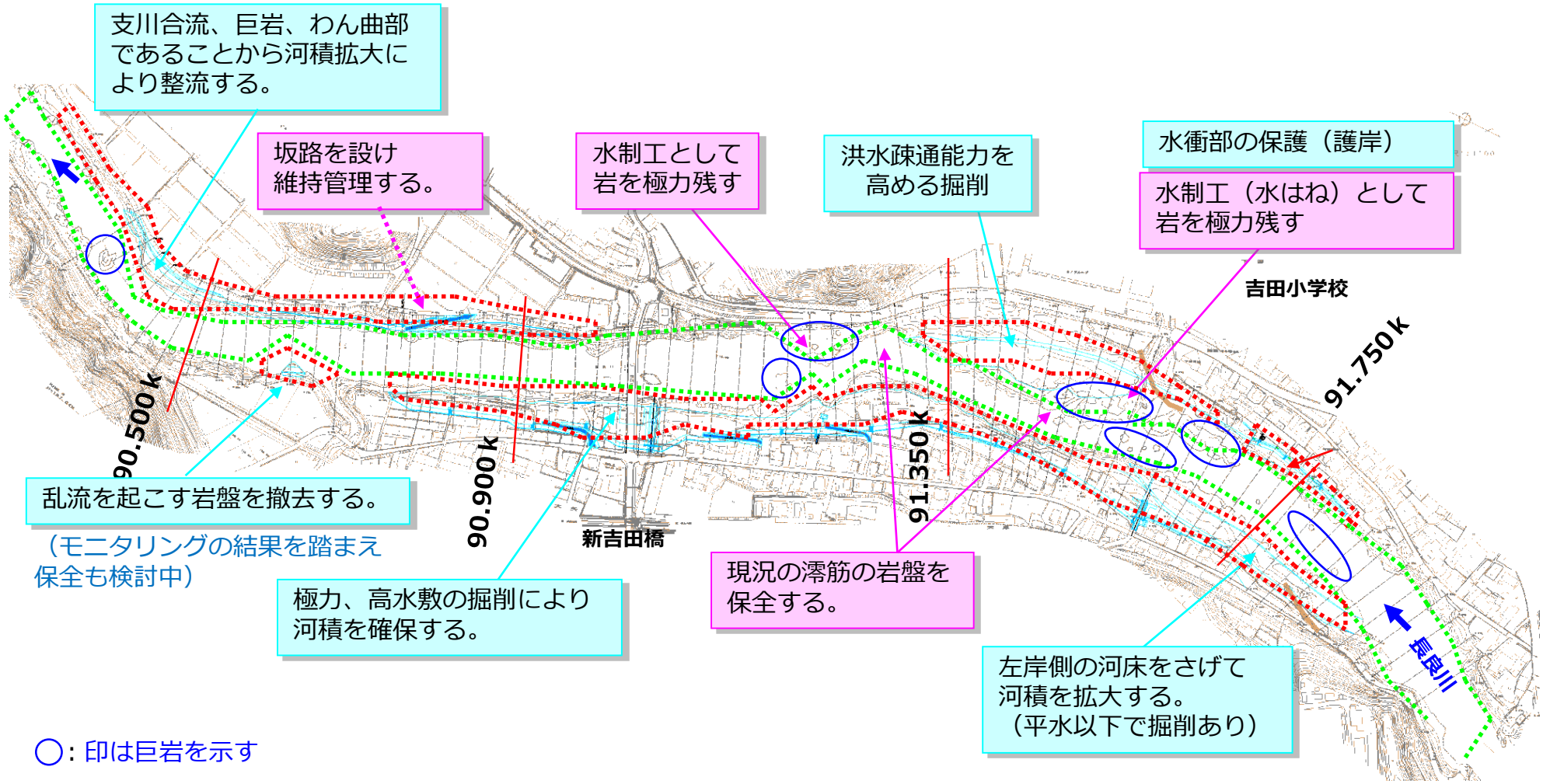
改修前の様子

- 改修区間は、昔から名前のついた巨岩があり、地元に親しまれ、川の景観を形成している
- 改修にあたり、「治水安全度の向上とともに、現在の景観（巨岩がある河川）の保全にも配慮してほしい」との要望が出された
- 当区間の特徴でもある急流と岩盤、深い淵を保全するために、
  標準断面を決めることから始めず、
  今ある川に最小限の手を加えて目標とする流下能力を確保した

改修計画（平面イメージ）

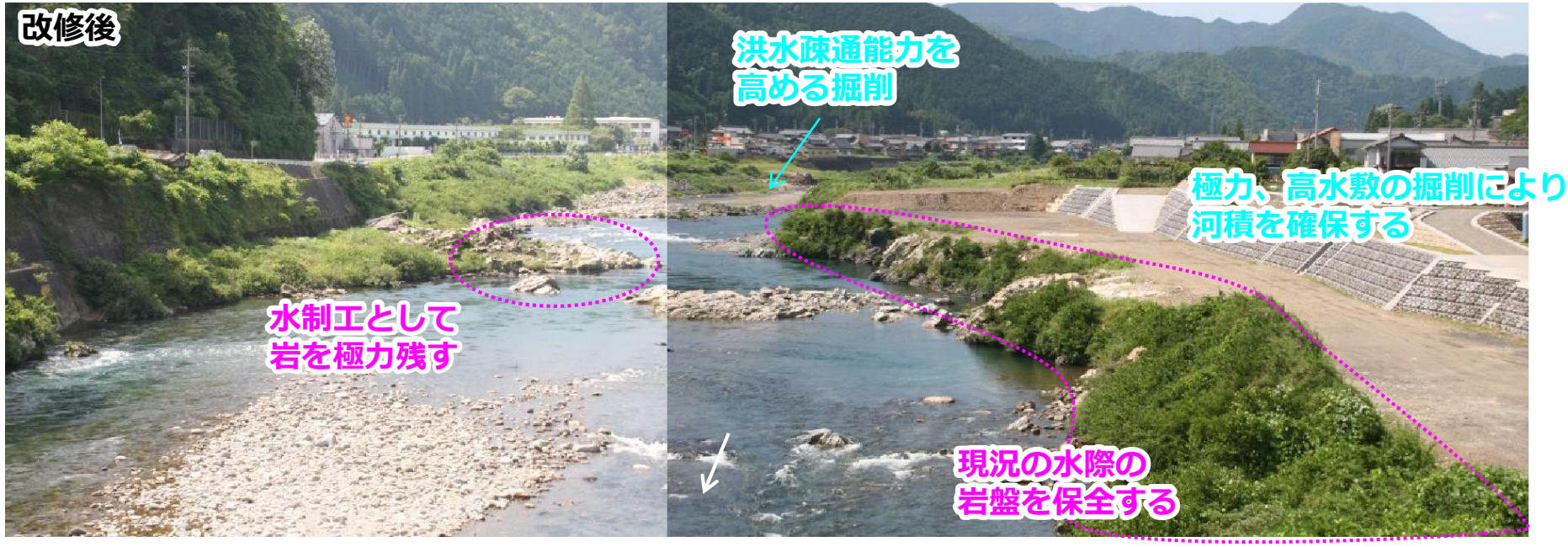
当区間の特徴である急流と岩盤と深い淵を保全する。

⇒不等流計算を繰り返し行い、川の景観を形成している巨石を存置した



○：印は巨岩を示す

新吉田橋上流の改修の様子



91.50ｋ付近の改修の様子

事例
河川環境情報図を活用した生き物にやさしい川づくり

球磨川水系河口（九州地方整備局）

形を変えていく干潟と消えゆくヨシ原

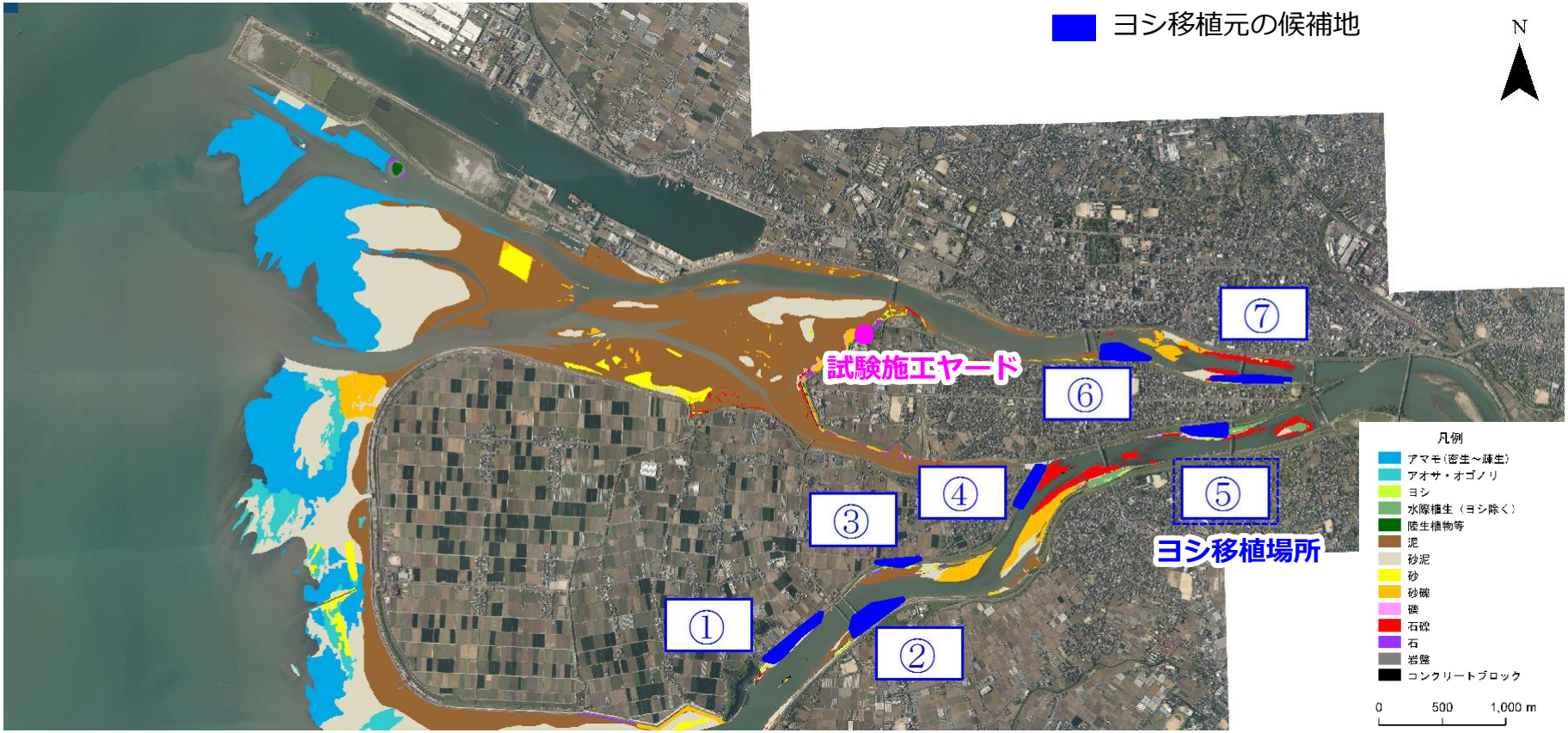
1960年代はヨシ原が見られたが、現在は見られない（2012.5）

多様な生物の生息環境である、ヨシ原の再生

- 球磨川の中流域で掘削した土砂を有効利用して、 中北地区の河口にそれを還元することで掘れてしまった河床を高くし、かつてあったヨシ原を再生させる
- それにより魚やカニ類等の多種多様な水生生物のすみかが増え、この河口干潟により多様な生き物が生息する環境が創出されることを目指す

ヨシ原の再生（イメージ）

河川環境情報図の活用～ヨシ移植元の候補地の選定～



- ヨシ移植元（採取場所）の選定には、河川環境情報図を活用した。
  1. ヨシの生育場所、面積の確認
  2. 生物の生育場としての機能の確認
     （改変による生物の生息・生育環境への影響度合い（貴重種の有無など））
- 候補地7地点から1地点を選定した。

ヨシ原再生に向けた試験施工

- 地盤高は文献や現地の生息状況を踏まえ、0.5mピッチで設定
- 球磨川の掘削土砂を、試験ヤード表層50cm覆砂
- 異なるヨシの移植方法（株移植、播きだし）を用い、生育状況を確認

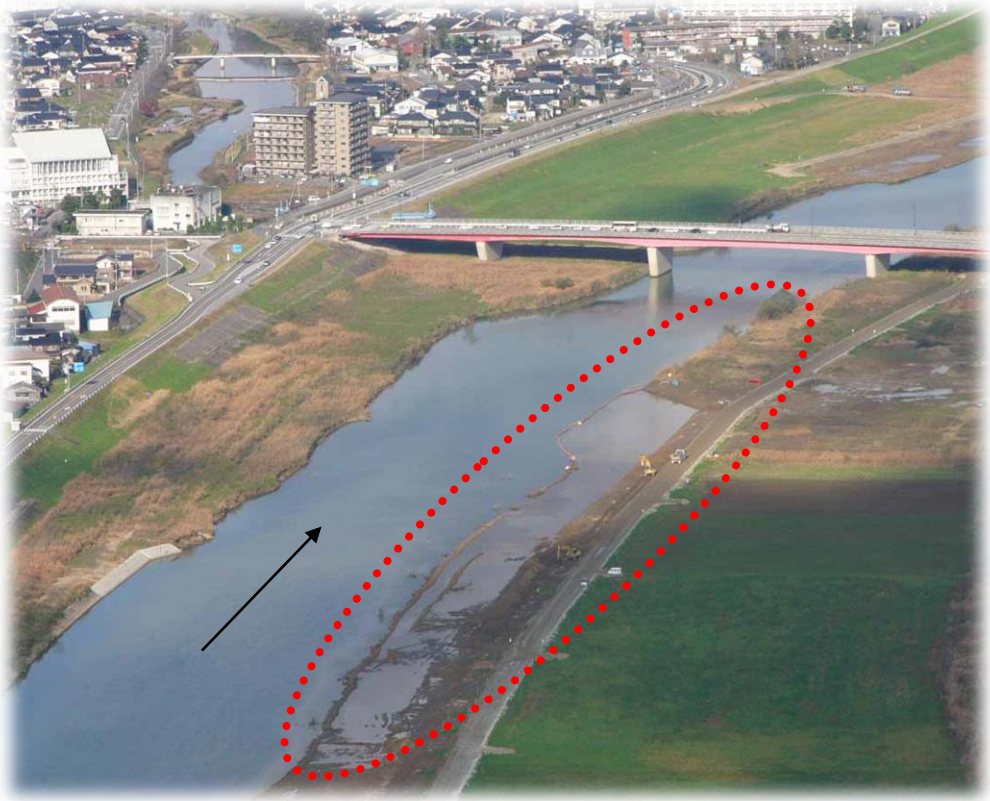
試験ヤード施工直後（2016.1.11撮影）

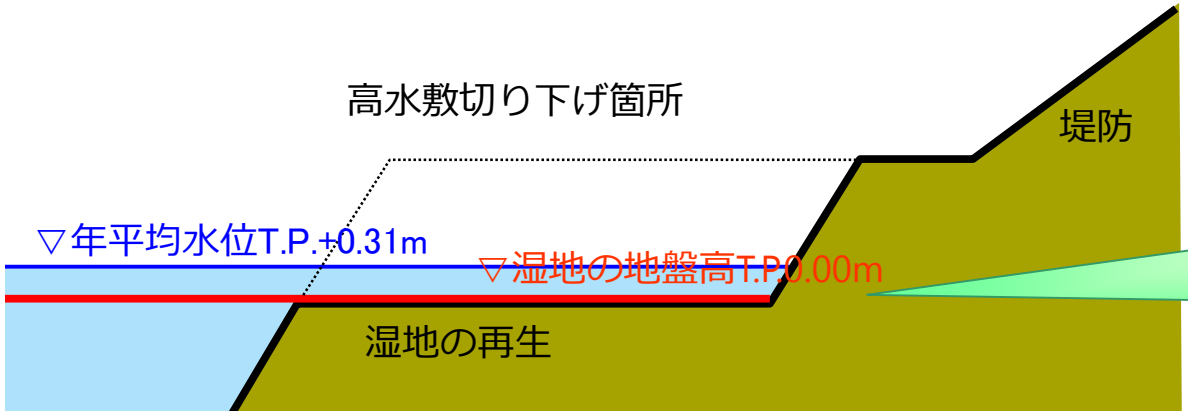
事例
川を軸とした生態系ネットワークの重要性

円山川水系円山川（近畿地方整備局）

河川激甚災害対策特別緊急事業による湿地再生

円山川では、河道掘削とあわせて、コウノトリが生息できるような、かつての多様な生物の生息生育環境の保全・再生を目指した川づくりを実施





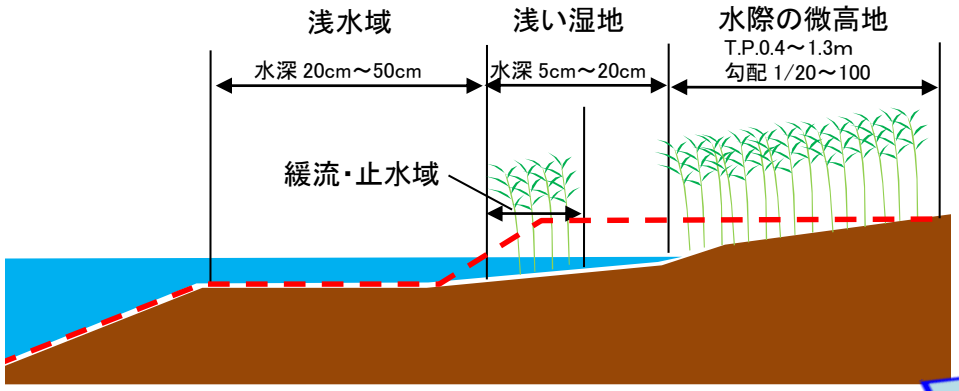
コウノトリの採餌に適した水深及びヨシ等の抽水植物の繁茂、土砂堆積等を考慮し、掘削高をTP+0.00mと設定

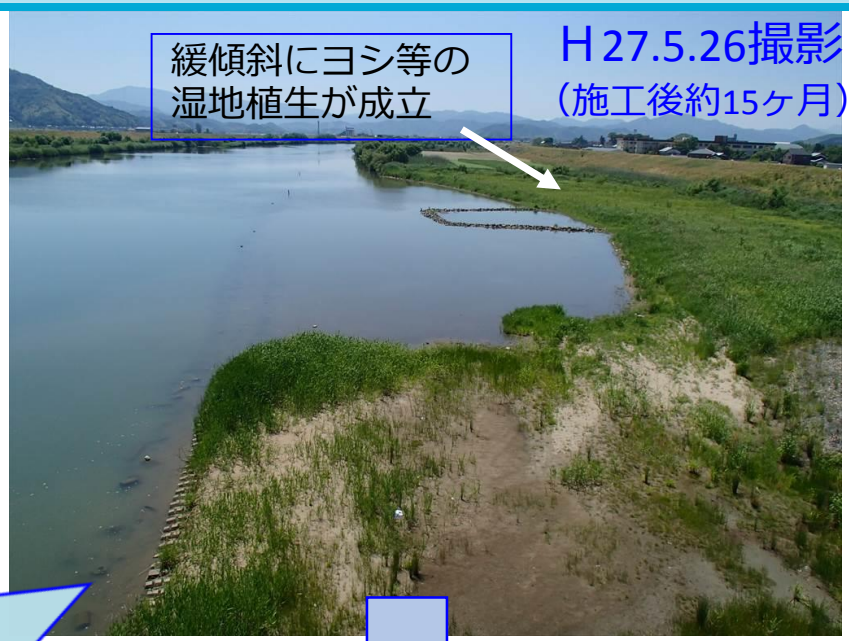
高水敷切り下げのイメージ図（横断図）

創出した湿地形状のさらなる改良

緩傾斜化

背後の高水敷を緩傾斜に切り下げ、「浅い湿地」、「水際の微高地」を創出。





H27.5.26撮影
（施工後約15ヶ月）

H26.12.10撮影
（施工後約8ヶ月）

H27.7.3撮影
（施工後約15ヶ月）

出石川加陽地区における湿地の整備

○古くは緩流河川が蛇行する区間であり、湿地環境が存在していた

○戦前にはコウノトリの営巣地が集中していた「鶴山」に近接する地区

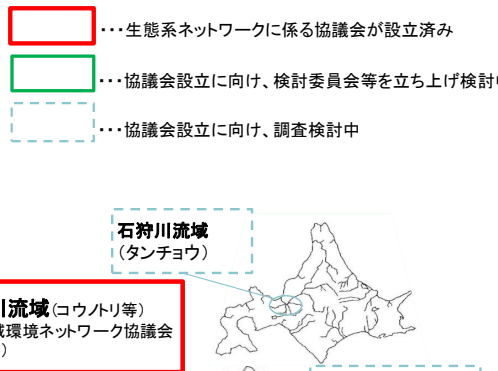
○地域や各機関の取り組みと連携を図った一体的な湿地整備

平成28年8月撮影

大規模な湿地環境の創出と河川～水路～水田の連続性確保
かつての原風景に見られた良好な湿地環境の創出

生態系ネットワーク形成の全国展開

生態系ネットワークとは・・・

国土の生態系ネットワークの重要な基軸である河川等での取組に併せ、コウノトリ等の分かり易くかつ象徴的な種を目標に設定し、市町村、NPO等の多様な主体や流域の農地・里山における施策とも連携し、地域づくりや観光振興に貢献する取組

全国の生態系ネットワークの取り組み状況